

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 新しいチームづくりスタート「自ら求めて動く」



「自ら求めて動く」子どもたちに・・・

活動（練習）姿勢として、昨年度の子どもたちに求め続けたのは、「自分（たち）で考え判断し行動する」でした。今年度の子どもたちには、「自ら求めて動く」とし、すでに求めています。いずれも「主体性」「創造性」を重視したものです。自分が好きでする活動なら、「言われたからする」「言われなければいけない」「言われたことしかしない」ではなく、「自分から求めて動く」ということです。準備してもらったもの、作ってもらったものをいただくだけの活動ではなく、自分（たち）で作りと活動し、片づけまでです。分からないこと、迷うこと、難しいことがあれば、自分から相談し、アドバイスをもらう。こんなことを求めています。

これまで、お伝えしてきているように、急速かつ大きく変化している社会を生きぬいていくための力（学力）は、「主体性」「創造性」「対話（コミュニケーション）」などをキーワードとする力です。国や県の教育行政は、これらを重視することを謳っていますが、現場実態とは、まだ大きくかけはなれています。教職員不足など現場の教育条件や、働き方改革が進まない教職員の労働条件の不備、毎年の学力実態調査の実施による点数学力を重視する姿勢、それらにより、なかなか進まない学校（教職員）の教育改革（意識改革）等が背景にあると考えます。

今なお、多くの学校で、学ぶものを教師が準備し、子どもはそれを与えられて、いただく。嫌いだったら拒絶したり逃避したり、という形になっています。全国的に不登校の子どもたちが増加し続けていることを、教育関係者をはじめ、社会はもっと重く受けとめるべきと考えます。これまでの社会とは違って変化していることを前提に、どのような教育を考えなければならないか、そのためにどのような学校でなければならないか、おとなはもっと深く考え、変えていくべきと思っています。考えるときの方向性（キーワード）は、「主体性」「創造性」「多様性」「共生」。これらを大切にしたい教育、学校につくり変えていかなければならない時代がきていると思います。

今の子どもたちは、まだまだ、自分（たち）で活動をつくったり、クラブ全体をリードしながら前に進めたり、ということは苦手です。経験が乏しいからですが、その経験を積ませてもらうチャンスそのものが、今の教育では与えられることが少ないと思います。時間や学習内容・進度に追われる学校現場なので、どうしてもおとな主導で、ほとんどの活動が設定されてしまいます。子どもたちが自分たちで準備し、作る作業を通して、失敗して落ち込んだり、成功して喜んだりという経験が少ないと思います。途中（プロセス）を省いて、結果を求められる教育では、経験（学力）がそぎ落とされてしまいます。

そのため、いざ自分（たち）で...となったとたん、どうしていいかわからず、じっとしたまま動かない、動けない、状況に陥ってしまいます。決められた道を歩み、決められた方法で問題を解くことはできますが、めざすことのために、道のないところでも、みんなで知恵を出し合い、新たな道をつくり、めざすところをめがけて歩いていくということは苦手です。この構え（姿勢）から抜け出すのに、毎年時間がかかりますが、今年も求めていきたいと思っています。